



ひよこだより 2月号

平成29年2月10日(金)

節分の日、鬼役のたんぼぼ組さんたちがひよこ組へ来ると、子どもたちは驚いたり、よくわからないままに、保育士と一緒に「鬼は外！」と豆まきをしました。鬼さんは時々お面の下から素顔を見せながら、「もう帰るよ、バイバイ」と言って逃げてくれました。楽しくて、優しい豆まきでした。

冬の寒さは、小さい子どもたちにとって“鬼”のようなものかもしれません。節分の行事でも、子どもの健康や安全を祈り、成長への願いを込めました。

立春の後も、寒さの厳しい日はあるでしょうが、子どもたちの元気な笑顔が温もりとなって、春を呼んでくれるように思います。



今までは、保育士と触れ合ったり、個々で遊ぶことが多かった子どもたちもお友だちに興味を示しはじめ、かわいい関わりが見られるようになりました。

そんな、今のひよこ組の様子を紹介します。

♪手をつなごう♪

保育士が“手～をつなごう”と歌うと、遊んでいた子どもたちの動きが止まり、お友だち同士、顔を見合わせながら、手を伸ばし、小さなかわいい手と手をつなぎはじめます。

なんとなく輪になり、子どもたちの笑顔で、その輪の中にいる保育士は、心が“ポッ”と暖かくなります。



～おーい～

廊下で遊んでいる時の事です。白い柵格子ごしに見えるお友だちに気づいた、はなのちゃんが反対側にいるお友だちに「おーい」と声をかけました。すると、反対側にいた友だちも「おーい」とこたえ、お互いに手を差し出していました。その後、格子ごしではなく、出会えた子どもたちは嬉しそうに笑い合っていました。



2月25日は、保育参観です。入園当初は、不安で泣いていた子どもたちもふたば保育園に慣れ、保育士やお友だちと関わって遊ぶようになりました。そんなひよこ組のかわいい成長をみていただきたいと思います。

ひよこ組担任…福岡、中村(亜)、桑原

すみれぐみだより



平成29年2月10日（金）発行

まだ風が冷たく寒い日は続いていますが、少しずつ暖かい日が増えてきました。室内で過ごすことが多くて久しぶりに園庭に出ると、みんなで追いかけてっこをしたり、何度も滑り台をすべったりと、思い切り動き、遊んでいます。最近のすみれ組のブームは、園舎の周りを探索することです。緑から黄色へ変化しているキンカンを見たり、給食室の裏を通り「今日のご飯何〜？」と楽しみにしたりしています。暖かい日には園庭に出て、植物や芽を見つけては、育ちのいぶきを喜び、春を待っています。



一足先に春がきました♪

節分の日、年長組さんの鬼と福の神がきました。お面を被っていたこともあり、初めは固まっていた子どもたちですが、保育士の「鬼は〜外！」の掛け声と一緒に新聞紙で作った豆を鬼に向かって投げていました。怖くない鬼と分かり、一緒に「鬼のパンツ」や「まめっちょ」のうたを歌い、帰っていく鬼に手を振っていました。

やがて福の神が訪れて、一気に室内がパッと明るくなり、春を届けてくれました。

子どもたちも笑顔いっぱいになっていました。



「できたよ！」

昼食後子どもたちはパジャマに着替えてお昼寝の準備をします。パジャマに着替えると今までは脱いだ衣服をそのままにしていたのが、保育士が畳み方を教えると興味を示して、真似をしながらパジャマかごに片付けるようになりました。上着の袖がうまく畳めなかったり、かごに入れる際に形が崩れたりすることがありますが、子どもたちは諦めず何度も自分で畳みなおしています。その意欲的な育ちの芽を感じ、頼もしく思っています。

★わらべうたの紹介

♪まめっちょ まめっちょ
 いったまめ ぼりぼり
 （リズムに合わせてお尻を叩く）
 いんねえまめ なまぐせ
 （リズムに合わせて頭を叩く）
 すずめらも まわっから
 おれらも まわりましょ
 （その場で一周回る）

本来は、門になるように手を繋いでいる2人の間をくぐって遊ぶ“門くぐり”という遊びなのですが、子どもたちが遊びやすいように二人用から一人用へと、振付をアレンジしています。

保育士が口ずさむように歌っていると、気づけばクラス全体で“まめっちょ”をしています。子どもたちには覚えやすく、お気に入りのわらべうたの一つとなったようです。



ちゅうりっぷだより 2月号



H29.2.10 (金) 発行

2月3日の節分の日、0.1.2歳のクラスが一緒になりひよこ組で過ごしていました。

そこへ、たんぼぼ組(5歳児)の鬼さんが登場しました。はじめは少し驚いて離れて様子を見ていた子どもたちでしたが、いつも遊んでくれるお兄さん、お姉さんだとわかり、ほっとした表情でした。新聞紙で作っていた豆を「鬼は～外」「福は～内」と言って投げっていました。

鬼が帰った後今度は、たんぼぼ組の福の神さまが保育室に入ってきました。子どもたちは「誰だろう?」という表情で見っていました。

福の神が春の花を手に「春を届けにきましたよ。」と言うと、ちょうちょの曲が流れて、福の神と子どもたちは、蝶になって部屋を飛びまわりました。福の神さまが帰った後、ひよこ組の大きな窓から太陽の光が射し込んですっかり春の雰囲気部屋いっぱい広がって温かな豆まきでした。



「こどもはかぜのこ」



朝から太陽が出て晴れた日、「お外に行くよ!」という保育士の言葉に「やった」と嬉しそうな返事の子もたち。トイレを済ませ、帽子をかぶり靴をはくと準備OK!するとガラス戸の端に耳をくっつけて不思議そうな顔をしていました。隙間から「ヒューヒュー」と風の音。保育士が絵本「ノントンおねしよでしよん」の北風さんよと話しながら保育士と一緒に外にでました。元気に滑り台や馬の遊具の方に走っていきました。追いかけてごっこやおしくらまんじゅうで思い切り遊んで部屋に戻りました。

～わらべ歌あそび～

歌詞は♪まめちょ まめちょ いったんまーめ ぼーりぼり

いんねんまーめなまぐせ

すずめらも まわっから おれらも まわりましょう♪

2月の豆まきをイメージした遊びです。

子どもたちは豆のように元気に跳びはねて喜んでいきます。



今月の絵本 「ねこのピート～だいすきな4つのボタン～」

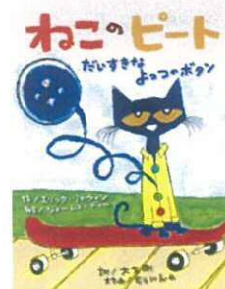
ねこのピートは、4つのボタンがついたシャツが大好き。

「よっつのボタン、かなりさいこう!」と歌っていると、

ボタンがひとつとれてしまっ…。

“形あるものはいつかなくなり、それにも意味がある”

という想いを込めた絵本です。

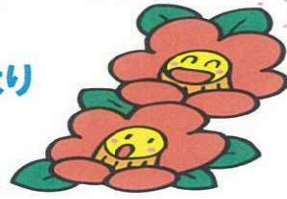


ちゅうりっぷ組 崎野・河内



こすもすぐみだより

第11号



平成29年2月10日(金)

節分の2日前、こすもす組に鬼さんから手紙が来ました。内容は、「心の中の鬼を退治しに3日の日にいくぞ」というものでした。手紙の内容を聞いて、泣きだす子どももいましたが、その様子を見ていた何人かの子どもが「僕が、みんなの事を守ってあげるから大丈夫だよ」と言っていました。節分の日、鬼のパンツの歌を踊ったり、鬼のボウリングや的あての遊びを以上児の部屋も解放して、楽しんだりしました。保育士が鬼の衣装に変身して子ども達と遊んでいると、本物の鬼がやってきました。鬼に「今日は、節分なので、豆を投げていいですか」と、聞いてみると、「いいよ」という返事でした。「鬼は外～福はうち」と言いながら怖がって泣きそうになるのを必死にこらえて豆を投げる子どももいました。その後、春を届けに来てくれた、大黒様と一緒に「春よ来い」や「どこかで春が」を歌い、春の予感がいっぱいの温かい雰囲気となりました。立春が過ぎて寒い日が続いても、子どもたちの笑顔が、春への道筋を作ってくれているように感じています。

寒さに負けないぞ！

3歳児になって、2月のこの寒い時期も乾布摩擦をしています。室内の窓を開けて新鮮な空気を入れて、上半身裸になり準備をします。保育士が「1, 2, 3, 4,」と掛け声をかけると子ども達が「5, 6, 7, 8」と数を数えながら身体をこすります。タオルでこする部位は、腕、足、胸等です。その後タオルを広げて自分の背中、腰の順番です。始めは自信なさそうな声でしたが毎日続けると、大きな声が、保育園中に響くようになりました。乾布摩擦をした後は、「何か、身体がぼかぼかする～」 「あったかくなったね」等と友だちと顔を見合わせていました。その後、シャツを1枚着て、園舎の周りを「わっしょい、わっしょい」と掛け声をかけながら走ります。毎日続けていると、「乾布摩擦をするよ」と

保育士が声をかけるだけで「ヤッター」という返事が返ってくるようになりました。丈夫な身体づくりに繋がればと思っています。3月まで続ける予定です。



雪っておもしろいね

先月末、雪が降ってきました。子ども達は、久しぶりの雪に「ゆき、ゆき」と大喜びだったので、早速園庭に出ることにしました。走って園庭に出ると、子ども達は、雪を捕まえようと、手を伸ばしたり、雪を追いかけたりしていました。「雪って面白いね」と子ども達で、話を弾ませていました。雪だるま作りや雪投げをして遊びたい思いの子どもたちの夢をかなえさせてやりたい、保育士の思いが降る雪と共に消えていくようでした。



担任…齊藤・萩尾・今丸



H. 29. 2. 10 (金)

2月に入り鬼から手紙が届きました。ひまわり組の子どもたちは、自分の胸の中にある「甘えん坊鬼」や「おこりんぼう鬼」などを退治してもらいたいと一緒に鬼に返事を書きました。「私たちの〇〇〇鬼と一緒に退治してください」と願いを書いているときの子どもたちの表情は真剣で強い意志を感じました。

楽しみにしていた節分の日がやってきました。いろいろなお面をつけて遊んでいると子どもたちの声を聞きつけてどこからか現れた赤鬼！はじめは驚いたような表情だった子どもたちですが、優しい鬼だと気づき投げた豆の強さをだんだんゆるめているように感じました。

鬼が逃げていくと安心し「退治できてよかった」「なんだかすっきりした気がする」など子どもたちのいろいろな感想でした。



踊りが始まりました！

たんぽぽ組が踊りの練習をしている姿を見ていたRくんが「たんぽぽさんみたいに踊ってみたいな…」と言いみんなでたんぽぽさんの踊りの練習を見学させていただきました。すると身体を動かすことが好きなひまわり組の子どもたちは見ているだけでは我慢できずに、見よう見まねで踊りだしました。

いろいろ講師の先生に質問したり、夕方のお迎えが来るまでの時間に友だちと順序や姿を確認し合って練習をする熱心な子どもたちです。

今は「むすんでひらいて」と「金太郎」の踊りを4歳児は教えてもらっています。毎週木曜日の踊りの練習日を楽しみにしている子どもたちです。





たんぽぽだより



発行：平成29年2月10日（金）

寒さの中にも少しずつ春の訪れを感じられる季節となりました。「最近暖かくなったね」「お日様がぼかばかして気持ちいい」と季節の変化を感じている子どもたち。「ダンゴムシが土から出てきてる」「こっちの木につぼみがあるよ」「他に春はないかな？」と寒さを忘れ園庭を駆け回り、小さな春探しに夢中です。



「もちつきぺったんこ♪」

先月27日にもちつきをしました。今年は切り餅を作ることになり、「切り餅ってどうやってつくるんだろう」「どんな味かな」と興味津々。セイロでもち米が蒸し上がり、臼に移してから、もち米が少しずつお餅に変化していく様子など、一つ一つが子どもたちにとって新鮮な体験だったようで、きねでつくると「もち米がどんどんお餅になってる」「つきたてのお餅はすごい伸びるね」と大興奮の子どもたち。きねの重さに驚きながらも、“ぺったんこ”とかけ声をかけながら力強くついていました。

乾燥させている切り餅を見ては「もう食べられるかな」「切り餅って食べるまでに時間かかるんだね。」「早く食べてみたいな」と切り餅の出来上がりを楽しみにしていた子どもたち。七輪やホットプレートで焼くと膨らんだ切り餅をみて「あんなに薄くなったのにすごい膨らむんだね。」「もちもちだったのにこんなに固くなるんだ」ともち米から切り餅になっていくおもちの変化に驚いていました。自分たちでついたおもちはおいしかったようで、「もっと食べたい!」「また切り餅作って食べたいな」と話していました。



「春がきたんだ!」

節分の日のことです。豆まきが終わり部屋に戻ると、きれいなスイートピーが届いていました。子どもたちはそれを見つけると「あ、もしかしたら福の神さんが春を届けに来てくれたのかな」と嬉しそうに話していました。その日の夕方、Aちゃんがスイートピーの花に顔を近づけて何か話をしていました。するとAちゃんが「今お花に、どうやって来たのって聞いてみたら、春の風でふわふわって来たのって言ってた!保育園にも春がきたんだね」と夢をふくらませながら、きらきらした表情で話していました。子どもたちも春が待ち遠しいようです。